

花曆 弥生

寒い！

三寒四温というより四寒一温の日々ですね。

風に向かってうつむいて歩くと、足元にはオオイヌノフグリやホトケノザが可愛くかつすくと花開いています。

おととと、私も背筋を伸ばせば、目の前に毛むくじらの三角帽子のようなつぼみをたくさんつけたコブシ（辛夷）の木が。一枚の葉もつけず、細い枝はぐるぐる生い茂る冬木立です。ある日突然に純白の六枚の花びらがほぐれ、青い空をバックに遠目には雪がかぶったごとく見えるコブシ。北海道から九州まで低山地に自生して、春を告げる花びらを手にとれば、ほのかな香りが無性に郷愁をかきたてられるのです。

コブシの名はそのつぼみの形が子供の拳に似るところから来ていて、学名はマグノリア・コブス・マグノリアはモクレン科の植物である事を示しています。早春の風の中、明るく清らかに咲く花は古くから多くの詩歌に詠まれ、すこぶる愛されてきたことがわかります。

街路樹としてもよく見られるコブシですが、白花のものとしてはハナミズキ、最近ではヒトツバタゴに流行が移って来ているように感じます。

園内では、管理棟裏に稀にみる大樹が咲きほこります。また各所に植えられ、ネームプレ - トも付けられています。どうぞお楽しみ下さい。

咲くとみて辛夷忽（たちま）ち湧くごとし

麦南

文：花咲くおばさん

森のなかま・カラスバト

こもれびの径で暮す“天然記念物”！！

「こもれびの径」には、この近くで見られる9種類の鳥がいます。その中の1種、カラスバトを紹介します。

名前の通り全身が黒色をしていますが、首には緑、背中には紫の光沢があります。体長は約40cmで、日本のハトの仲間の中で一番大きなハトです。

野生のカラスバトは五島列島や沖島など、日本周辺の島に生息しています。あまり人の手が入らないような照葉樹林で単独生活をしているので、人の目にかかる機会はあまりありません。

さらに、最近の森林伐採などの環境破壊問題で激減している鳥類の一つであり、天然記念物にも指定されています。

そんな貴重な鳥、カラスバトのペアが「こもれびの径」にいるんです！

この、カラスバトの激減を少しでも食い止めたく、今回「こもれびの径」にカラスバト専用の巣箱を設置することにしました。ちゃんと、この巣箱を使って繁殖をしてくれるかは分かりませんが、かわいい雛が見られることを願って飼育スタッフも頑張ります！



皆様も是非会いに来て、そして見守ってください。

飼育展示係 北野温女